

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名：歩容意図行動モデルに基づいた人物行動解析と心を写す情報環境の構築

2. 研究代表者：八木 康史（大阪大学産業科学研究所 教授）

3. 中間評価結果

歩容(歩行パターン)と意図の関係を歩容意図行動モデルとして記述し、映像中の歩容から人の意図や心身状態、人間関係を読み取る技術を構築し、さらに、意図に基づく情報提示の在り方を明らかにすることにより、心を写す情報環境の構築を目的とした研究である。意図・注意と歩容の関係解析や視線と誘目性の関係から注意と歩容を結びつける試みが計画通り進展している。極めて多くの歩容データを取得し、多方面への応用の道が開かれてきた。また、万引きを例とした軽犯罪検出技術の開発、商業応用では注意の向きや集団歩容解析などの研究が開始されている。成果の発表も積極的に行われている。当初想定していなかった高齢者の歩容解析やそれに基づくりハビリテーションなど現在の日本にとって極めて重要なテーマに展開している。「心を写す情報環境の構築」という目標は本領域の「共生」という観点から重要なテーマである。今後より一般的な歩容の解析が可能となり、シーンのコンテキストを含めて意図(興味, 目的地)や認知度の判別へと研究が進めば、現在視野に入っている商業施設、高齢者福祉施設、犯罪抑止に加え、たとえば子供の見まもりなども含めた広汎な社会応用が可能になると期待できる。